

## 私の留学

李政奎\*

### 1. 留学先の紹介

私は現在韓国に留学に来ています。‘韓国人が韓国で留学するの?’と言われることがあります。私の通っています国際法律経営大学院（Transnational Law & Business University、略して「TLBU」と言われます。）は、アジア出身で法学部を卒業した留学生のための特殊な大学院であり、私も日本の法学部を卒業した者として TLBU の修士課程に在学しています。

### 2. TLBU の特徴

TLBU は学部課程がなく、修士課程や博士課程を設けていますが、この大学院を特別にするのは何といても構成員である学生の特徴にあります。

#### ①まずは、多様性です。

‘アジアで法学部を卒業した留学生のための大学院’という表現から伺えますように、TLBU はアジアの国々から留学生を募っています。現在約 100 名の

---

イジョンギョ  
\*李政奎 弁護士法人オルビス所属 66 期

在學生がいますが、大雑把な割合でいいますと、中国からの留學生が半分程度で、残りの半分は東南アジアの諸国から来ています。(ベトナム、カンボジア、ラオス、タイ、インドネシア、マレーシアから留學生が来ており、ミャンマー、フィリピンからは卒業生はいるものの在學生はいません。) 本大学院では英語以外の言語の使用が禁じられ、寮生活を原則とするため、国ごとのグループ分けという感じではなく、違った国の學生同士が自然と親密になっていきます。自国の基準を無理に通さない、謙虚な多様性に富んでいるように感じます。例えば、インドネシアとマレーシアの間には領土問題があり、若者たちはお互い良い感情を持たないそうですが、TLBUではそのようなことは一先ず頭の一角に置き、外出して一緒にタッカルビを食べながら話し合い、どのようにして協力的な未来を築けるか真剣に悩んだりします。

### ②次に、実力です。

TLBUでは国際法、アメリカ法、経済経営関係の授業が設けられており、すべての授業は英語で行われます。授業とはいっても受身的なものではなく、學生自ら順番を決めてプレゼンをし、これに対して質問をしながら互いに意見を交わすという形式の授業です。學生の80%位が母国の弁護士資格を持っており、堪能な英語を駆使して知識や意見交換に取り組んでいます。私の経験しました日本の法科大学院の授業と最も異なる点は、授業中に取り上げる色々な論題につき、構成員の国々の制度や運用を比較的に検討することを要求されるため、発言者は自国の制度やその運用、慣習を説明し、これに対するレスポンスによってその国の特殊性が浮き彫りになるということです。例えば、刑の種類を説明するとき、その国特有の制度を説明し、残酷な刑罰として禁止されるべきものはどのような基準で線を引いて決するべきかを考えたりします。このようにして各国独特の考え方に容易に接することになり、比較検討の面白さを味わうことができます。

### ③最後に、若さです。

学部卒業生が募集対象であることから、在學生は22歳から24歳が大半を占

めており、TLBUは活気に満ち、同質感に溢れた集団を成しています。誰か‘明日はサンギョップサルを食べてからイルサン湖公園に散歩に行こう～’という話を突然挙げると、わっ～と話が盛り上がり、次の日に遊びに出かけるといところが‘TLBUの若さ’を物語ります。時々、人生の重さや未来の不安に悩んでいる若い友人に一回り位先輩の立場からアドバイスをすることもあります。大したアドバイスができるわけではなく、ただ話を聞いて大丈夫だと安心させる程度のことをします。

### 3. TLBU 留学中に心がけたこと

私は、学部卒業から随分経ってから本大学院に入っており、国籍（韓国）と就学地（あるいは有資格地—日本）が異なることから、TLBUの中でも例外的な存在です。韓国留学は裴薫先生（弁護士法人オルビスの代表弁護士）のお勧めがそのきっかけとなりました。裴薫先生からは、‘業務に耐えるほどの英語力を身に付け、アジア諸国からの友人をつくるように。’というアドバイスをいただきました。30代半ばの私が留学をしながら心がけたのは次の2点です。

#### ①英語力アップに励む

日本の法律市場で増えつつあるアジア案件を取り扱うために必要な能力に英語力が含まれることは他言を要しません。私の場合、受験英語は中学時代から勉強していましたが、今回は生活英語や法律英語を身につけるよう努力しており、これまでとは一味違った面白さを感じています。今回の韓国留学を始めて以来、時には終わりのない言語学習の世界で迷いながらも、英語学習に拍車をかけてきました。特に、英語プレゼンに慣れるまでの1年間はプレゼンの準備と実施にストレスを感じましたが、状況は段々良くなってきたように思います。ストレスが取れた分だけ英語力もアップしていることを期待したいところです。振り返ってみると、あっという間に1年半が経ち、卒業まで後1学期というところまで来ました。

## ②友人関係をつくる

英語以外に留学中に私が心がけましたのは、多様な友人関係をつくり、これを深めることです。中国、東南アジアの弁護士達と毎日のように一堂に会い、親睦を深めることができる場所は TLBU くらいではないかと思われま。他国の弁護士と友達になるというのも悪くないですが、私の中には彼らと交わることに對する一層強い動機がありました。私自身、日本留学中に、‘このような日本人に出会えたなら自分の留学がもっと豊かなものになれたのに。’と心細い思いをしたものです。自分の母国に留学に来ている外国人留学生に‘韓国留学の楽しさ教えてやりたい。’という意欲が湧いてきたことから、その一心でソウル周辺の観光地やイベント、B級グルメを紹介し、一緒に食事やお茶の時間を楽しんできました。

## 4. TLBU 留学中に感じたこと

もし読者の方が TLBU を訪問すると、そこで出会う誰かが笑顔で“Hello ~”と挨拶してくることに驚くと思います。韓国や日本での日常では全く期待できない程の明るさに圧倒されてしまうでしょう。私は1年以上 TLBU に通い、1学年上のシニア、同級生、1学年下のジュニアを含めた約150人の学生たちと接していますが、未だに毎日明るくて気持ちのいい「笑顔のHello ~」を目にし、耳にしています。誰か‘私に東南アジアの印象は何か?’と聞くと、私は迷いなく‘人の明るさです。’と答えます。なぜか韓国の現代人は、万人への笑顔や対価を期待できない相手に対する親切さを忘れてしまったような気がします。

TLBU は2001年から15年間500人以上の卒業生を出しています。少数の卒業生は韓国のローファームで働いていますが、大多数は母国に帰り、弁護士や公務員として活動しています。中国と東南アジアという区分はあまりにも大まかで、東南アジアで括られた国々からの友人たつに申し訳ないのですが、両者

で異なる点（中国と比べて東南アジアの有する共通点）も多々あるのは現実です。そのうちの一つは、中国人の卒業生は弁護士が多いのに対し、東南アジアの場合公務員と弁護士が同じくらいの数を占めているということです。インドネシア人の友人に聞きますと、弁護士よりも公務員の方が権力に近く、収入もそれほど変わらないから弁護士より公務員を選ぶ人が多いとのこと。

ほとんどの在學生は韓国の文化や韓国での生活が気に入るようです。彼らにとって私は、授業中に日本の法制度等を説明する日本担当留学生でもあります。韓国にも増して、韓国に土地勘を持つ地元人の意識が用意ようです。韓国生活で不便なことがあると私に文句を言い、オンラインショッピングで困ることがあるとSOSを飛ばします。韓国語を勉強する友人はKAKAO-TALKで質問をしてくれます。こう見えても韓国語ネイティブの私ですから（笑）。韓国が好きだと言われるとなぜか私は心がいっぱいになります。韓国の地を訪れた友人達が韓国留学の一時をもっと楽しめるよう、留学が終わるまで頑張りたいたいと思っています。

## 5. TLBU 留学中に得たものと弁護士の道

今年の夏で最終学期が終わると、私は弁護士法人オルビス大阪事務所に戻ることにになります。今後日本弁護士としてカンボジア人やベトナム会社の事件を扱うことが頻繁に起こるかはよく分かりません。しかし、長い目で見ると、TLBU 留学はきっと財産になると思います。お金に換算できるような財産も悪くないのですが、私はそれ以上の財産を得ることができました。人のために、人に代わって、人の言いたいことを筋合いよく代弁するのが弁護士の仕事であれば、私はこの留学生活を通して、彼ら/彼女らの毎日の「笑顔のHello~」からすべての人間を尊重し、その利益を守らなければならない理由、弁護士活動に死力を入れる理由を心に刻むことができたように思います。韓国留学中に人生初めての息子に出会い、その笑顔が見ながら、‘この子のためにも頑張っ

『エトランデュテ』創刊号

て働かないと。’と思いますが、「笑顔の Hello ~」はそれに劣らない人生の原動力になるに違いありません。アジア人の一体感がますます高まって行きますように！